

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多部制単位制高校の意義をふまえ、生徒や保護者、地域等の期待に応える教育活動を常に研究しながら、進化する学校をめざす。

- 1 本校のあり方や方向性を検討しながら教育活動を推進し、生徒や保護者、地域等の期待に応える学校をめざす。
- 2 自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ力を身につけた生徒を育てるとともに、希望する進路を実現できる学校をめざす。
- 3 人権を大切にし、自尊感情を向上させるとともに、社会性（規範意識・ボランティア精神等）を身に付けた生徒を育て、誰もが安心して学べる学校をめざす。

2 中期的目標

1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

- (1) 現状の分析と生徒・保護者等の期待の把握、及び将来構想チームを中心として本校の在り方や方向性を明確化して必要な取組を計画・実施する。
※生徒の現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を図る。
- (2) 本校の教育活動への理解を促進するため、広報活動の充実を図る。
※ 府内90%以上の公立中学校に本校の案内をする。
- (3) 職員研修の充実により、常に人権意識と教育力の向上を図る。
- (4) 学校協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。
※ 保護者向け学校教育自己診断の「生徒指導や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的回答率（平成29年度76%）を2020年度には80%にして維持する。
※ 地域との連携を深め、地域の事業所等での職場体験やインターンシップを実施する。

2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実

- (1) 希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。
ア 桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」を完成させて実践する。
※ 自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解等の向上（アウトカム指標で全項目プラス評価）
※ 進路未定率の減少（平成29年度と比較して5ポイント以上の減少）
- (2) 充実した学びなおしの環境をめざす。
ア 多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、学校設定科目の増設や習熟度別授業編成を強化
イ 希望進路実現のための自学自習の場所提供や補習・講習の充実
ウ 学習意欲の向上を図るため、学外の学習機関との連携や学習評価について研究する。
- (3) 生徒の授業評価や授業公開を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。
※授業力向上推進チームを中心として、研究授業・研究協議を実施して授業力の向上をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（平成29年度74%）を2020年度までに80%以上にして維持させる。

3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立

- (1) 「総合的な学習の時間」や特別活動等で人権教育を充実
ア 人権教育でフィールドワークやワークショップなどのメニューを開発する。
イ コミュニケーション能力を高めるため、自ら考え発信できる教材を開発する。
- (2) 中退防止PTを中心に、現状分析と生徒指導体制を確立する。
- (3) 教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を確立する。
ア 外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。
- (4) 生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動、部活動）を充実し、社会性を育成する。
ア 生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの参加者を増やす環境づくりをめざす。
※生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率（平成29年度64%）を2020年度までに75%以上にして維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]				学校運営協議会からの意見	
結果・分析・課題等（数値は肯定的な回答の割合を示す）				<p>【第1回】平成30年7月4日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の卒業後の進路などを考えた指導をするために月平均3回研修を行っている中で、そこで出されたプランを全員が組織的に実行していくことを期待している。 ・今後、YouTuberなど今までになかった職種に就く生徒が増えてくる中で、10～20年後にありそうな仕事にも視野を広げて生徒に伝えていくべきだと思うが、それに対する具体的な対策は考えているか。 →進路説明会などで、様々な企業を招待し説明等をしていただいているが、今後さらに検討していきたい。 ・中退防止PTの活動について知りたい。 →生徒の出欠状況は個別に逐一確認し、欠席が多い生徒については家庭訪問・新入生については前籍校と連絡を取り合い、生徒一人一人に合わせた対応を組織的にしている。また、I・II部について知ってもらうため、各中学校を訪問し、広報活動にも力を入れている。 <p>【第2回】平成30年12月21日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多忙な中で研修など実施してくれており、ありがたい。携帯電話の指導もとても良いこと。自由な校風の中でも規律を感じられるのは良いことだ。 ・行政では乳幼児が最優先になるが中高生を押さえないと貧困の連鎖が止まらない。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再編整備計画について、生徒や保護者の不安も大きいと思う。だからこそ、進路保障に力を入れて取組んでいるのがわかるので、ぜひ頑張ってもらいたい。 ・どの課程でも加えてもらいたいのですが、性教育について取り入れていただきたい。 ・生徒向け学校教育自己診断に設問1「学校へ行くのが楽しい」の項目を追加。 ・スマートフォンの指導について、効果があったということだが、授業に集中できているということか。⇒スマートフォンに触れないということで、授業に気持ちが向いている。⇒協議を踏まえ、平成31年度の「めざす学校像」「中期的目標」が承認された。 	
	生徒	保護者	教員		
学校への意識	60.6%	61.3%	93.8%		
	89.5%	98.1%	96.9%		
学習指導	69.5%	65.1%	96.9%		
生徒指導	79.9%	89.4%	68.8%		
教育相談	60.8%	83.0%	84.4%		
進路指導	77.7%	85.7%	84.4%		
道徳教育	77.0%	82.9%	71.9%		
人権教育	79.7%	85.7%	59.4%		
情報提供		84.6%			
<p>・【生徒指導】、【進路指導】、【人権教育】の肯定率は、今年度も生徒、保護者とも約80%あり、取組みに対する一定の評価が伺える。昨年度より追加された「いじめ」に関する対応の結果は、生徒(78.0%)保護者(92.2%)で昨年度とほぼ同じ数字であった。日頃から小さな問題でも見逃さず対応していきたい。</p>					

府立桃谷高等学校 (CSI II部)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開</p>	<p>(1)保護者等との連携や本校の在り方、方向性の検討</p> <p>(2)本校への理解を促進する 広報活動の充実</p> <p>(3)学校力向上のための職員研修の充実</p> <p>ア 職員研修の実施</p> <p>イ 教職経験の少ない教員のスキルアップ</p> <p>ウ 参加型研修による実践力の向上</p> <p>(4)地域連携の一層の推進</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談や家庭連絡を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。 将来構想チームを設け生徒のニーズに応えられる本校の在り方、方向性を検討 <p>(2)</p> <p>真に本校を必要とする生徒・保護者に、本校の学校情報を正確に伝えるため、公開授業や個別相談、学校訪問などの実施。 特にHPについて、閲覧する者にとって分かり易いものに一新する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・教員力を向上させるための研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究会等の外部研修の積極的案内と参加及び研修報告会実施及び研修報告座談会の開設 教職員のアイデアを学校運営に反映させるためのコミュニケーションタイムの実施 <p>イ・教職経験3年目までの教員を対象とした、授業力及び校務処理能力のスキルアップを目的とした研修(MMP)の実施。そのことにより業務の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年目までの教員への学校運営を学ぶ研修を学校説明会と学校協議会を活用してOJTで実施。 <p>ウ・人権に関して、参加体験型を含めた研修を行い実践力の向上を図る</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した授業や総合学習等を一層推進する。 地域と連携した防災への取組みを推進する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談の実施率 前年度の10%増 (H29前期41.8%、後期30.4%) 学校教育自己診断「生徒のニーズ」肯定率90%以上(H2988%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学に文書案内 府内公立中学100%の維持 (H29100%) HP更新回数50回以上 (H291月現在57回) 公開授業参加者の肯定的評価90%以上 (H2992.1%) <p>(3)</p> <p>ア・人権及び支援教育に係る研修会を5回以上実施(H295回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研修への参加者数のべ30人以上及び研修報告会回数(H2910回) 教職員のアイデア採用件数 <p>イ・研修(MMP)への関係教員の満足度肯定率80%以上(H2992%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年目までの教員による学校広報プレゼン、学校協議会記録の作成 <p>ウ・研修参加者の肯定的評価80%以上(H2990.8%)</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した参加体験型学習の実施回数(H2922回) 地域と連携した防災研修の実施 防災計画の見直し 	<p>(1) 保護者懇談(前期39.5%後期26.9%) 家庭訪問(前期50件 H29 45件 1/15現在 27件 H29 20件)を実施した。(△) 学校教育自己診断「生徒のニーズ」肯定率90%(○)</p> <p>(2) 中学校への情報発信100%、HP更新90回、公開授業参加者の肯定率も95.9%であった。(◎)</p> <p>(3) ア・人権研修3回、支援研修2回実施。 ・外部研修参加のべ89人、職員会議での研修報告は8回、座談会3回(1/15現在)実施して共有を図った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションタイム2回実施、教職員からのアイデア採用3件(携帯指導・部活動指導時間確保・HP刷新)(○) <p>イ・MMP研修の対象者5名で年間8回(1/15現在)を実施。対象者の満足度肯定率93.9%であった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学フェア、3回実施した学校説明会では、紹介プレゼンや個別相談を担当し、本校独自の教育システムについて理解を深めた。説明会の参加者の肯定率は95.9%であった。又、学校運営協議会の記録も務めHPで公開した。(○) <p>ウ・参加型研修参加者の肯定率98%であった。(◎)</p> <p>(4) 福祉・情報・総合学習等、今年も43回実施し地域資源の活用を図った。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 区防災担当と連携し研修や「大規模災害初期対応マニュアル」を改訂した。防災研修の参加者肯定率は100%であった。(○)
<p>2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実</p>	<p>(1)「学びのシステム」の構築</p> <p>ア キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築</p> <p>イ 実社会に触れる学びの実践</p> <p>(2)授業力の向上</p> <p>ウ 「確かな学力」を育成するための授業研究の実施</p> <p>エ 「確かな学力」を育成する授業の研究</p>	<p>(1)</p> <p>ア・桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」での各教科・分掌等の役割の確認及びコンピテンス(育成したい能力)・具体的取組みの設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピテンスに基づくアウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)について、新入生の入学時と1年後の肯定率の変化の検証を行う。 進路実現に向け意欲を高める「キャリア・ガイダンス(進路担当者面談)」及び「キャリア・カウンセリング(担任面談)」の充実 <p>イ・進路説明会において実社会に触れる学びが実現できるよう内容の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・「授業力向上推進チーム」を設置し、「わかる授業」をテーマに生徒が主体的に取り組む授業をめざした授業研究の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学月間年2回実施(6月、11月) 授業で視聴覚機器やICT機器を活用する。 <p>エ・教科毎に、授業での「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマとした指導方法を研究。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で考えをまとめさせたり、発表させる機会を設ける。 	<p>(1)</p> <p>ア・各教科・分掌等においてコンピテンス・具体的取組等の作成(4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトカム指標(自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像)の肯定率について、入学時、1年次末、2年次末の経年変化を調べ、その評価を行う。 進路希望未定者の減少10%以下(H292.8%) 進路未定率の減少20%以下(H298.8%) <p>イ・進路説明会の参加数の向上5%増及び生徒評価肯定率80%以上(H29参加者899人、肯定率97.0%)</p> <p>(2)</p> <p>ウ・すべての教科で研究授業と研究協議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 見学感想票の提出80%以上(H2986.1%) 学校教育自己診断(生徒用)「視聴覚機器やコンピュータの活用」70%以上(H2960.1%) 学校教育自己診断(生徒用)「授業で考えをまとめたり、発表する機会」50%以上(H2940.4%) <p>エ・「確かな学力」の指導方法をまとめる(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート項目「知識技能が身に付いたと感じている」の全教科平均3.2以上(H29前期3.2、後期3.3) 	<p>(1) ア・4月に各教科シラバスを始め分掌・委員会等で作成し学校教育計画に反映した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> H30入学生の1年後の変化は増加し、在校生の経年変化では昨年度は全般的に減少傾向であったが、今年度は増加に転じた。引き続き、スモールステップでの成功体験など褒めることを中心として指導に当たりたい。(○) 進路希望未定者0.8%(○) 進路未定率23.3%(△) <p>イ・進路説明会4回実施。のべ参加者数893人0.7%減(△)、参加者肯定率96.3%(◎)</p> <p>(2) ウ 実施率100%。見学感想票の提出率は前後期を併せて84.3%であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用は64.0%、授業中の発表の機会があるは46.4%であった。昨年度からは一定の改善はしたものの、引き続き環境整備の改善及び教員の意識改革に向けて充実を図りたい。(△) 指導方法については、各教科で授業アンケート等を基に検討したが、まとめとして提出するには至らなかった(△) 全教科平均は前期:3.2で後期:3.2で維持した。(○)

府立桃谷高等学校 (C S I II部)

<p>3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み 及び人権教育の確立</p>	<p>(1) 総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み</p> <p>(2)(3) 支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開</p> <p>(4) 社会性育成のための取組み ア 地域の教育資源の活用 イ 達成感の得られる自主活動や学校行事の充実 ウ 居場所作りと安全・安心の向上</p>	<p>(1) ・人権学習プログラムを桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めて、H30 新入生全クラスで系統的に実施。</p> <p>(2)(3) ・「高校生活支援カード」を活用した「個別の教育支援計画」の作成及び活用。 ・支援検討の専門家及び関係機関の協力を得た支援検討会議の実施。 ・教育相談に関して、学校独自臨床心理士をSCとして招聘。教員組織も、教育相談担当を支援検討担当と別に設け充実を図る。 ・関係機関(司法・行政・福祉)等と連携した支援の実施 ・教育相談・支援教育推進のための研修実施 ・支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導。 ・授業を大切にすることを念頭におき、規律指導として遅刻指導やスマートホンの授業中の取り扱いについて校内で統一し、生徒の意識改革を行う。</p> <p>(4) ア・地域等との交流を深め、地域人材の協力を得た授業や講演、職場体験などの充実を図る。 イ・生徒会・部活動・ボランティアなど自主活動の充実を図るための環境整備とアナウンス ・部活動指導充実のための教員体制の改善を進める。 ・魅力ある行事への工夫・改善 ウ・地域人材の協力を得て図書館の整備を行い、図書館を居場所としての充実を図る。</p>	<p>(1) ・人権学習プログラム実施後の生徒評価 肯定率 80%以上 (H29 91.9%)</p> <p>(2)(3) ・「個別の教育支援計画」の作成(必要生徒) (H29 計 12 名) ・支援検討会議の実施回数 (H29 5 回) ・関係機関を交えたケース会議等の実施回数 (H29 46 回) ・教育相談・支援教育に関する研修の実施 2 回の維持 (H29 2 回) ・指導に対する生徒の納得度 肯定率 80%以上 (H29 80.1%)</p> <p>(4) ア・連携を行った地域等の機関の数 10 ヶ所以上 (H29 10 ヶ所) イ・自主活動参加者の向上 前年度部活動参加者の 5%増 (H29 88 名) ・行事参加者数の増加 (前年度比較) 及び参加者の満足度 肯定率 80%以上 (H29 校外学習 肯定率 92.5%) ウ・地域人材の協力を得た図書館整備の実施 (20 回) ・図書室利用者 年間 3000 名以上 (H29 2785 名)</p>	<p>(1) ・人権学習後の生徒肯定率は96.4 %で高い評価であった。又、学校教育自己診断の「人権について考える機会がある」の生徒肯定率も前年の79.0から79.7 %で約 8 割の高い水準を維持し、取組の成果が伺える。(◎)</p> <p>(2) (3) ・支援計画作成人数(計14人)、検討会議(5回実施)、関係機関を交えたケース会議等(34回) (△)</p> <p>教員研修の実施(2回) (○)</p> <p>学校教育自己診断の生徒肯定率は「学校生活についての先生の指導には納得できる」が前年の 80.1 から 80%、「先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」が前年の 69.7 から 70.3 %に微増した。(○)</p> <p>(4) ア・連携を行った機関の数34ヶ所。(◎) イ・部活動参加者89名 (△)。学校教育自己診断の生徒肯定率でも「学校は部活動にも参加しやすいよう工夫している」が64.4%で昨年の62.8 %より上昇した。(○)</p> <p>・体育祭参加数276人 (H29 263人) 満足度肯定率91%、文化祭参加数285人 (H29 278人) 満足度肯定率89%、校外学習参加数209人 (H29 254人)、満足度肯定率87 %。肯定率は 3 行事とも80%以上であったが、校外学習参加数が減少した。(○)</p> <p>ウ・図書館整備の実施回数は22 回 (○)、図書室利用者数は2569人であった。(△)</p>
---	---	---	--	---